

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300573		
法人名	医療法人社団 明星会		
事業所名	グループホーム 明星		
所在地	岐阜県加茂郡富加町夕田373番地		
自己評価作成日	平成23年11月21日	評価結果市町村受理日	平成24年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171300573&amp;SCD=320&amp;PCD=21">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171300573&amp;SCD=320&amp;PCD=21</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年1月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

10年一昔と言いますが振り返ってみると早いもので、手造りから始めた我グループホームです。現在のところ2名様が10年という月日を過ごされています。ご家族の温かい見守りや地域の皆様の支えにより年を重ねてくれた事に感謝しております。ホームと共に元気にお過ごしいただけるのを願うばかりです。幸いにして静かな山里には手を合わせ心落ち着く所や素晴らしい公園があり、子供たちの歓声も見聞きでき、情緒豊かな自然あふれるこの地で互いに支えあい寄り添いながら暮らしのできるホームです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の老人保健施設と診療所に併設されたホームである。開設から11年目を迎え、地域と支え、支えられながら、住民との緊密な協力を構えている。地域のボランティアや住民による映画会の催し、苗植えや季節行事の外出の付き添いなど、様々な形で住民の協力を得て運営されている。医療に関しては、協力医による定期的な往診と、法人の看護師に常時相談できる体制もあり、本人と家族の安心を得ている。職員は、利用者が、山里の豊かな自然と、地域の人々と触れ合いながら、最期まで楽しく笑顔のある生活が送れるように、心のこもったケアを実践している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安 なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有しながら、地域密着サービスの役割を職員共々意識付け、誇りと自信を持ち実践につなげています。今まで同様掲示・唱和は続行している。	開設時に職員により作られた理念は、今もなお、申し送りやミーティングで唱和し、日々のケアの中でも確認し合っている。地域との結びつきに重点を置き、家族と本人と地域を繋げるパイプ役の存在となれるよう、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	準自治会に加入もでき、地域交流が盛り上がってきたものの、高齢化により外出が頻繁にできなくなってきたが、出来る限りの範囲で地域にでかけ住民としての暮らしが出来るように取り組んでいる。地域の皆さんには暖かく見守っていただいている事をありがたく感謝している。	自治会に加入し、地域行事や独自に公民館の除草などを行い、法人やホームの行事への参加も住民へ呼び掛けている。公民館や道路の清掃・慰霊塔への供花など、体調や状態のよい利用者と共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践、経験を生かし地域に役立つ方針でいる。ある時「迷惑をかけない事又入所者の皆さんが穏やかに過ごせているという事が地域貢献につながっているから無理なく今まで通りで良い」という意見を頂事業所としての役割の見方を見直している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議において活動報告・意見交換をする事により多くの意見が出るようになり、関心が高まっている事を実感する。違った分野からの意見を聞くことにより、ホームの資質改善へとつなぐ事が出来ている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、地域役員・行政・民生委員・家族・地元ボランティアなどの参加がある。住民からの介護保険や認知症などについての相談・質問等、活発な意見交流が行われている。意見等は、随時サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町村担当者、包括支援センターの皆さんとは常に現状把握していただけるように情報をいれたり、時には協力依頼等良い関係を保ち、サービス向上につながっている。	運営推進会議の参加により、情報交換や相談なども気軽に行える良好な関係ができています。事業所の実情や困難課題を、その都度伝え、サービスの向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては研修に参加するなどし、全職員が十分理解し、適切なケアに取り組んでいる。玄関施錠は夜以外行っていない。施錠しなければいけない理由が発生した場合は玄関にお知らせの札をかけている。	拘束は身体だけでなく、言葉や行動の拘束もある、という意識を全職員が持ち、拘束のないケアを行っている。玄関は夜間以外は施錠せず、抑圧感のないように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会、研修には積極的に参加し身をもって体験することにより小さなことでも逃さずお互いに論じ合いし防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の成果は発揮できないが、制度の理解は十分できている。現在では必要性を感じる家族は見えないが活用できる体制は出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初めの段階ですべてお話しさせてもらい、双方言いにくい事も分かち合い理解、納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の気持ち、要望、意見 小さな声も無駄にせず受け入れ、常に感謝の気持ちをたえず外部者、運営に反映させている。	年2回の家族会以外に、花見や夏祭りにも参加する家族が多く、手伝いを申し出る家族もある。家族からは、希望の食事を採り入れて欲しいなど、訪問時に気軽に管理者や職員に希望を伝えている。内容により、全職員に迅速に伝え、利用者のケアへと活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ほうれん草ノートの活用、ミーティング時の意見交換により楽しい職場作りに努めている。そのためには一人ひとりの意見を尊重している。明るいムードが利用者様に反映しサービスの向上につながっている	連絡や報告を行う「ほうれん草ノート」を活用し、管理者が、会議の中で、意見を聞いている。職員から利用者が使いやすい設備の改善、改修などの提案があり、それらは、法人内で検討し、改善等に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力は認めている。職員皆が利用者様の為にという各自の気持ちが良い環境を作っている。現状維持してゆきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、勉強会、県社協、グループホーム協議会等、外部研修にも積極的に参加できる体制作りが出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、町のケア会議等に参加し意見交換をおこなうことによりサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ごく自然の形で馴染み親しむようご本人と向き合って信頼関係を築く、ご本人に不安を感じさせないよう安心、安全を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、困りごと、今後の不安な等と同じ気持ちになって聞き入れ、今までの実践をもとにはなしながら信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関から情報をいただき、何を求めているのか、何を求めているのかの見極め、適切な支援へとつなげることができている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の大家族をイメージした雰囲気の良い関係となつて共に暮らしている。ある時は嫁になり、娘、兄弟となり認知症があっても人生の先輩として敬う姿勢で暮らすことができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員・家族・ご本人が一体となり支えあっている。本人と家族の絆を大切にしながら良い関係が築かれている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との関係が薄くならないよう、そして継続できるよう支援に努めている。ホームの来所を歓迎したり、色々な場所での交流が本人はもとより全員の方の喜びにもなっている。そして職員が関わるにより知りえる事もある。	元同僚や友人・知人の訪問が多く、廊下に設けられた応接室で、楽しいひと時を過ごしている。近隣の寺社へ参拝し、馴染みの住民と出会い、会話が弾むこともある。職員との会話の中に出てきた懐かしい場所に訪れるなど、柔軟に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が一人一人を把握することにより、利用者間の関わりあい、支えあいをうまく調整できる技術が笑いに変え、皆が同じ立場で同じ気持ちで暮らしていけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても今までの関係を大切にしているお見舞い・訪問・電話での様子伺い・最期のお見送り等行い、ご家族への相談、支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念に掲げているその人らしさの暮らしを基本に、日々の生活の中で意思表示の出来ない方も暮らしの中で行動を見極めながら、常に情報をもとに支援につなげている。それぞれの得意とする事を導き出し共に喜びあう姿勢を保っている。	得意なことや好きなことを含め、一人ひとりを見つめることで、喜びと苦しみも分かち合い、思いを把握している。把握した思いや意向を、暮らしの中に導き出し、共に喜び合うケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの有する能力に合わせて暮らしの中で役立てている。生活歴、生活環境、サービス利用の経路の把握は出来ている。情報はなるべく多くもらうように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン作成時は本人・家族を交えて要望を聞き入れ見直しを行いながらより良いケアプラン作成に努めている。日常生活の様子が落ち着くまでは電話等による相談に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごと又は状態の変化に応じて本人・家族・職員全員(必要に応じて主治医の意見を聞く)で見直しを行い、より良い生活が送れるよう介護計画を作成している。	日々の介護記録を基に、3ヶ月ごとの見直しだけでなく、毎月の職員会議内でも意見を求め、ふり返しを行っている。退院後などは短期に見直し、急変時や必要時にも見直すなど柔軟に行い、家族の意見や希望を基に、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践・結果を個々に記録し、ケアプラン会議や職員会議において盛んに意見を出し合うことにより、工夫が生まれ介護計画の見直しへとつなげている。家族からも意見・情報が聞け介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化とは言えないが、事業所の運営規定にとらわれることなく、本人・家族の状況により必要と思われる支援などは行う事もある。(退院時 事業所職員が迎えにゆくサービス等)		

岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を十分に活用しその人らしく生活されている。幸い小さな町であり、身近に感じる気楽さが一人一人が豊かに心と暮らしぶりが見受けられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは家族の希望により深くかかわりあう事ができ信頼関係が出来ている。その人によっては家族代理でも受診し、投薬も受けながら適切な指導のもとで支援している。	利用前のかかりつけ医を継続し、家族が受診同行する人が多く、医療情報は家族から聞きとり、個別ファイルに記録している。毎週、協力医の往診があり、全員が受診している。適切な医療が受けられることで、利用者・家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である老健施設・診療所の看護師さんに助言をいただき、利用者様の病気の早期発見及び体調管理が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院され重症化しない場合は病院にむき家族・医療機関と情報交換することで早期退院できるように努めている。今までの生活に戻ることに本人・家族も安心されている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に今後の方針を訪ねるようにしている。ほとんどの方が「出来るだけここに長く居たい」という希望をである為、終末期の在り方を学び主治医・ご家族を交え取り組んでいる。事例あり	終末期に関しては、基本的に、ホームで行える医療の範囲までとしており、家族が泊まり込みで付き添うなどの協力が得られる場合は、看取りも可能としている。家族会や個別に、機会ある毎に説明と相談を行っている。	重度化・終末期の対応では、随時、意思確認を含めた判断基準等を定め、さらに明文化されることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練時はマニュアルにより対応可能であるが、急変その場での対応はマニュアルに沿った職員の判断で対応する事により、実践力を身につける。又訓練、勉強会も実践力を養うことに役立っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月9日を訓練日として独自の方法で行っている。又母体老健とともに年2回の消防訓練・避難訓練を行っている。グループホーム独自の地域の協力体制があるが、母体の老健とともに協力体制の協定が出来ている。	年に2回、法人合同で災害訓練、避難訓練を実施している。災害時には近隣からの協力体制を築いている。備蓄も食料と水だけでなく、薬やおむつなども用意している。毎月実施する自主訓練では、避難経路の確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症対応のグループホーム入居者であってもその人の人格は変わらない。人生の先輩として尊重しプライドを損ねない声かけに気を使い対応している。	職員は、会話や言葉に留意し、利用者の誇りを傷つけないように心がけた対応をしている。トイレや入浴、着替えなどは、その人に合わせた支援や介助を行っている。本人と家族に聞き取った上で、希望の呼称を用いるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来ない方への働きかけはその時の状態と関わる職員間で出来ている。出来な場合は職員が交代して対応する。少しでも本人の思いを表現できるように努力し、出来た時の喜びを次の支援へとつなげてゆく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースを押しつけない。あくまでもその人らしい暮らしを重視して一日を楽しく過ごしていただくように支援している。毎朝きょうの行事・何をしたいかを話題にして一日が始まる。感謝		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年を重ねても女らしさを保ってほしい。鏡をみる、髪の毛を整える、マニキュア等でおしゃれを楽しみ、気分を変えるよう支援している。外出時、日常着を何回も着替えられその日の気分を楽しんでおられる方もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の楽しみは健康の証拠 ホームでの味付け・食材が舌をなじませているせいか、外食に行っても食べ残しが多くなり、「個々のご飯が一番」と言われる。落ち着いて食べられる事もあるのか環境も影響するのかわからないが、準備片づけも出来る人で職員と共にやっている。	食事は、旬の野菜を使い、利用者の好みを取り入れて調理している。また、特別に趣向をこらし、握り寿司や松華堂弁当、うなぎ、栗ご飯なども提供している。利用者の経験や知恵を活かし、よもぎ餅やおやつ作りも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算を試みた経験を基にして一日の摂取カロリーを把握している。水分確保は十分に出来ている。別に動きの多い人はその都度確保する習慣が出来ていて安心である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔が保てている。自分で出来る人はやっていただき、声かけ・見守り・介助を本人の力に応じて支援を行っている。又歯科往診は必要に応じてお願いしている。		

岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し誘導することにより失禁をなくす支援を行っている。失禁のある方でも布パンツ、パット対応し、おむつ使用者はなく、適切なトイレ誘導にて自立に向けた支援を行っている。	食事材料の工夫や日常的な活動・作業により、快適な排泄リズムの人が多し。排泄パターンを記載することで、その人に合わせた職員のさりげない誘導や声かけにより、利用者の半数は布パンツを使用し、費用の削減に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居時に便秘薬使用者が多いが、食事・適切な運動、水分補給(自家製のブレンド茶)により薬に頼らず排便が出来るように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員の希望や時間を合わせる事が出来ないがお湯の温度・長めに入りたい方等の好みを聞き入れ入浴していただいている。	入浴は隔日が基本であるが、利用者の要望や状態によって柔軟に対応している。入浴拒否の原因を全職員で考えることにより、入浴拒否は解消している。季節を味わえるゆず湯や菖蒲湯、よもぎ湯などで、楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠りにつけれるよう部屋の温度・明かりに気を配っている。休憩にと昼間お昼寝を進めるがあまり好まれずされない方が多いが、体調を考慮して60～90分程休んで頂くこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の薬については皆理解している。変更がある場合は申し送り、記録にして服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って楽しく過ごされる方、苦労話等人生話に聴き上手な方、取り持つ職員が皆さんを巻き込み張り合いや喜びのある日々に支援している。よく話し、よく笑いがあるのが素晴らしい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力があり外出・外食されたりして日常的に戸外に出かけている。全員での外出時には地元のボランティアさんの協力を求め、出かけられるように支援している。	日常的に近隣を散歩している。ウッドデッキで、ティータイムやランチタイムを兼ねて外気に触れている。住民への回覧板等を、職員と届けたり、外出の機会を提供している。また、家族やボランティアの協力を得て、利用者が希望する買い物などに出かけている。	



岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族と相談して事務所預かりとしている。報告は毎月行っている。所持される方は2、3名小額持っている。使う事の支援については「もったいない」と使われない方が殆どで、使えるように支援はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば電話は自由に使っていたり年賀状・暑中見舞いなど書いていただく支援を行っているが、面会が頻繁にありその必要性を感じない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には見慣れないものを置かない。四季感を外の景色で感じられる事ができる。リビングには鉢植えが置かれ、花を楽しみ、陽が差し込み日向ぼっこが出来る。テラスからは池の鯉や鳥のさえずりが聞える等生活感や季節感は自然と共に工夫されている	リビングの天井には天然木の梁が通り、開放的である。部屋からは、季節を感じられる柿の木や桜が見える。窓際で、観葉植物や花を育て、水やりは、利用者が担っている。廊下には、一人になれる場所としてソファを置いた応接コーナーを設置し、家族や知人との面会場所にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の中間あたりに見え隠れする場所が設けられている。3人掛けのソファがあり気の合った方々の会話の出来る心地よい場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしさを感じさせる家具が持ち込まれている(写真・ソファ・ベッドカバー等) 小さな仏壇・ご主人の遺影など住みなれた部屋の感じを再現され居心地良い工夫がされていたり、シルバーカー歩行が部屋の中ではつたい歩き出来る工夫など様々である。	ベッドやクローゼット、洗面所が各居室にあり、自分が使いやすいよう、家具等を設置している。仏壇や整理タンス、鏡を持ち込んでもらい、家族の写真や利用者の作品なども壁に飾り、安心して生活ができるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心・安全な生活を送っていただきたい。高齢化に伴いシルバーカーが増え、空間が狭くなってきているが、使い慣れた補助具であり、自立した暮らしが出来ている。		